

大垣市と共に「ユビキタスタウン構想推進事業」を企画・運営

当法人では、平成21年度より大垣市とともに、総務省の「ユビキタスタウン構想推進事業」に応募・受託することができ、シンククライアント端末利用の情報通信活性化による障害者の就労拡大を主とした、地域活性化に向けての取り組みを進めていく中で、障害者の在宅就業について、企業や自治体からのより広範囲の業務の発注を促進するため、シンククライアント・パソコン及び携帯電話利用を主体とした情報通信技術を用いて、情報セキュリティへ配慮しながら、委託された業務の内容に応じて障害者に依頼し、業務の割り振りや進捗状況の確認、問題点の抽出・支援を行い、安全・安心に業務が遂行できるシステムを構築しました。

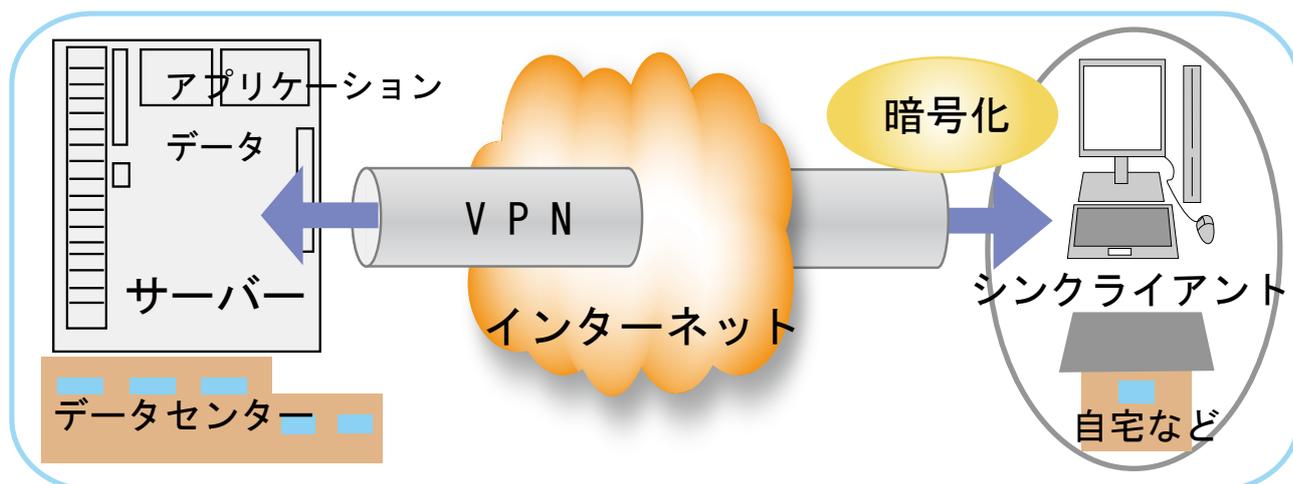
バーチャルメディア工房ぎふでは、大垣市とともにこの事業を企画・運営しています。

特徴

このシステムは、在宅やサテライトオフィス等を含んだ広域なネットワークでの運用を前提としており、シンククライアントとインターネットVPN技術を組み合わせた仕組みを採用することで、通常のパソコンとインターネットを使用する場合よりも、ウィルス・不正アクセスなどの脅威や、パソコンの盗難・紛失等に対しても情報の漏えいを防ぐことが可能であり、より高いセキュリティを確保しています。

これまで、個人情報等の機密性に対しセキュリティの懸念で外部委託が難しかった業務なども、このシステムの活用により実施可能となるため、障害者の就労拡大が期待されます。

また、このシステムにはWEBを利用した在宅学習の機能も装備するほか、シンククライアントの特徴としてアプリケーションもサーバーに集約できるため、在宅での教育やOJTなども、より効率的に行うことが可能です。



ユビキタスタウン構想推進事業イメージ図

用語解説

■シンククライアント 【Thin Client】

アプリケーションソフトやデータをできるかぎり手元に蓄積しないクライアントのことで、パソコンからハードディスクなどの補助記憶装置等を取り除いた最小限の機能だけを搭載し、アプリケーション（ワープロや表計算、業務システムなど）はサーバーにアクセスして実行する。

データもアプリケーションも、すべてサーバー内に置かれるため情報漏洩や個人情報保護に対するセキュリティ対策に役立つだけでなく、アプリケーションのセットアップやバージョンアップ、複雑化しているハードウェアのメンテナンスなどにかかる運用・管理コストの削減をはかることもできる。

■VPN【Virtual Private Network】

インターネットを専用回線のように利用できるサービス。企業内ネットワークの拠点間接続などに使われ、専用回線を導入するよりコストを抑えられる。

流れるデータはそのままでは漏洩する恐れがあるため、IPsecなどを使用して通信内容を暗号化することで、機密性の高いデータを通信できるようにしている。